

第 1 部

足立区学力定着に関する 総合調査結果概要

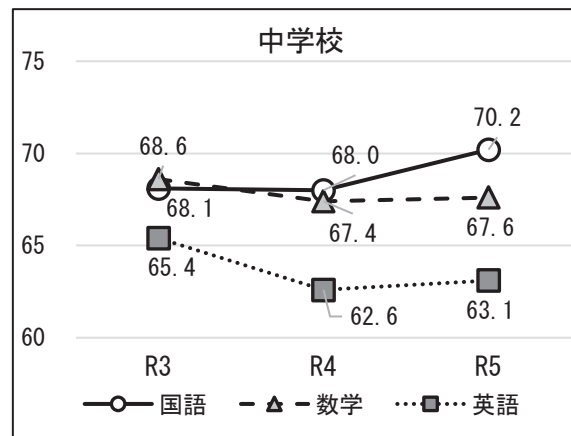
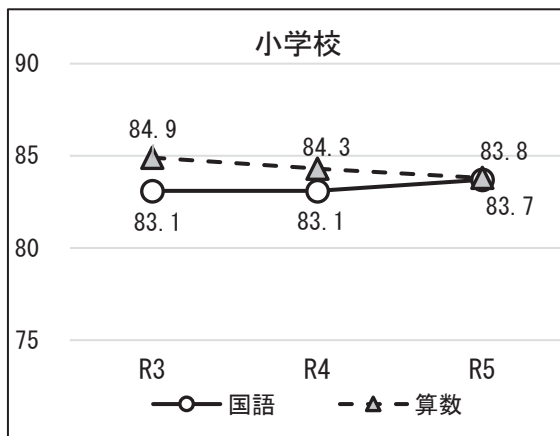
1 学習定着度調査

(1) 足立区全体の通過率と平均正答率の推移

- 学年・教科別の通過率は、全体的に前年度より改善傾向。正答率も中1及び中2の英語並びに中3の数学を除いて全て全国値を上回っており、長引くコロナ禍の影響を最小限に抑えている状況が見て取れる。
- 全国値を上回っていても正答率自体が低い教科・学年もあるため、学習指導要領で求められる育成すべき資質・能力を踏まえた授業改善を一層推進していく必要がある。
- 学校を個別に見ると、通過率・正答率に学校間の格差が生じており、課題が見られる学校には重点的な支援が必要である。

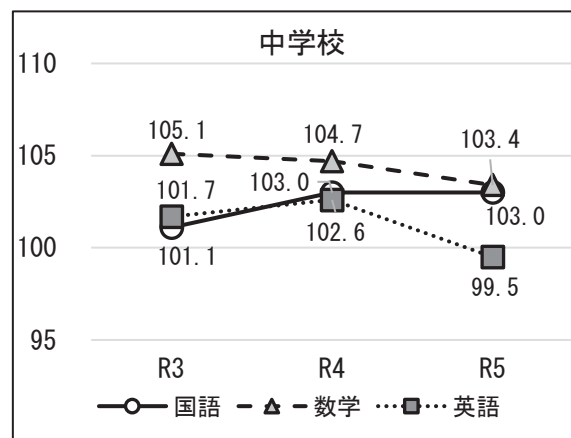
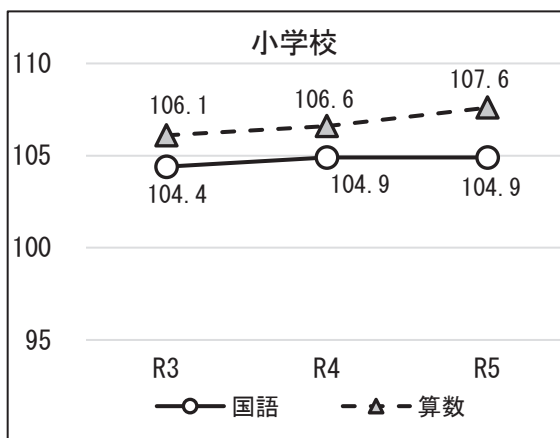
ア 通過率

(単位：%)



イ 平均正答率

(全国値を100とした指数)



下線部の数値は、通過率は令和4年度を、
正答率は全国値を上回ったものを表す。

(2) 学年・教科別の通過率及び平均正答率

ア 小学校

(単位:%)

(ア) 国語

	小2	小3	小4	小5	小6
目標値 (R4)	69.2	68.1	56.8	53.8	56.9
通過率 (R4)	86.9	86.8	83.7	79.6	78.6
目標値 (R5)	74.4	72.7	58.1	56.0	60.9
通過率 (R5)	84.1	85.9	<u>86.1</u>	<u>83.4</u>	<u>79.0</u>
正答率 (R4)	86.6	82.4	73.1	67.1	68.2
正答率 (R5)	<u>88.2</u>	<u>86.7</u>	<u>77.9</u>	<u>75.2</u>	<u>71.8</u>
(全国値)	(84.4)	(84.0)	(72.3)	(70.6)	(69.8)

(イ) 算数

	小2	小3	小4	小5	小6
目標値 (R4)	77.2	71.4	62.1	60.1	48.3
通過率 (R4)	92.5	88.0	85.4	74.7	81.5
目標値 (R5)	74.8	71.3	60.4	60.1	50.5
通過率 (R5)	<u>92.9</u>	87.0	84.8	<u>76.6</u>	78.1
正答率 (R4)	91.9	87.1	78.3	70.3	67.4
正答率 (R5)	<u>89.3</u>	<u>85.6</u>	<u>76.3</u>	<u>70.7</u>	<u>67.8</u>
(全国値)	(85.7)	(81.4)	(69.2)	(64.1)	(61.8)

イ 中学校

(ア) 国語

	中1	中2	中3
目標値 (R4)	65.7	61.2	68.7
通過率 (R4)	69.6	73.0	61.2
目標値 (R5)	67.1	66.0	71.6
通過率 (R5)	<u>73.9</u>	<u>77.5</u>	59.3
正答率 (R4)	72.6	71.7	71.7
正答率 (R5) (全国値)	<u>74.9</u> (72.2)	<u>76.2</u> (73.7)	<u>74.0</u> (72.6)

(イ) 数学

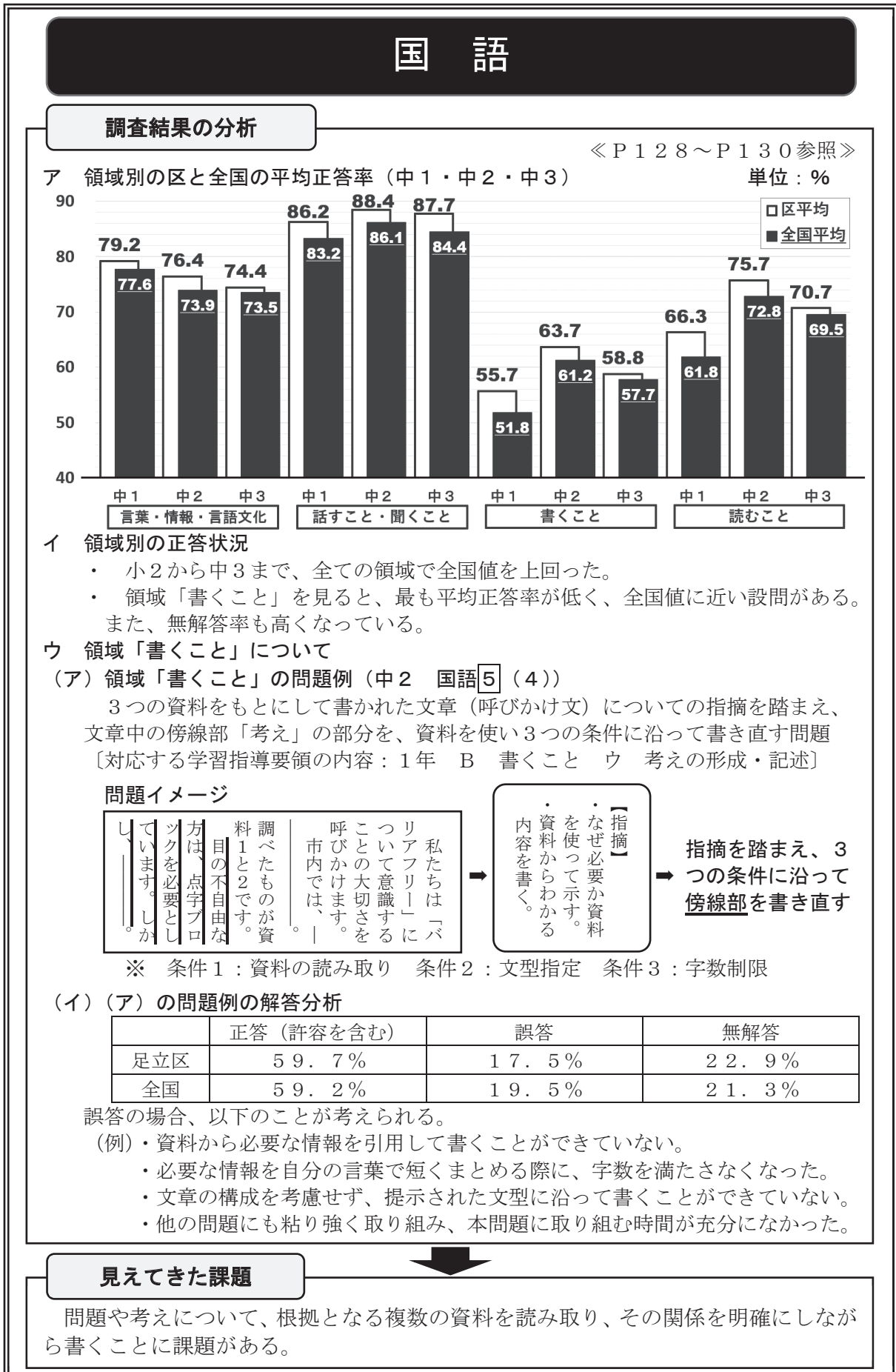
	中1	中2	中3
目標値 (R4)	58.7	52.0	46.1
通過率 (R4)	75.3	66.2	60.4
目標値 (R5)	56.4	41.2	40.5
通過率 (R5)	<u>77.4</u>	64.9	<u>60.5</u>
正答率 (R4)	67.7	60.3	51.1
正答率 (R5) (全国値)	<u>70.6</u> (66.4)	<u>49.7</u> (48.5)	46.1 (46.1)

(ウ) 英語

	中1	中2	中3
目標値 (R4)	81.0	51.3	53.0
通過率 (R4)	71.3	52.4	63.6
目標値 (R5)	65.5	57.1	55.6
通過率 (R5)	<u>76.5</u>	<u>55.0</u>	57.8
正答率 (R4)	87.2	53.4	63.1
正答率 (R5) (全国値)	73.7 (74.7)	60.1 (60.6)	<u>60.1</u> (59.6)

紙面構成の都合により本ページ余白

(3) 教科ごとの正答状況から見た現状と課題



課題の解決に向けた指導のポイント

ア 資料と条件に着目させ、考えとの関係性と書き方について、考えの形成・記述を意識して指導する。

イ 小中連携を意識し、系統的に指導する。(考えの形成・記述)

小学校			中学校		
第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
語と語や文と文との続き方に注意しながら、 <u>内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。</u>	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、 <u>事実と感想、意見を区別して書いたり</u> するなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。

活動例



まず、〈条件1〉をよく読んでみましょう。何と書いてあるでしょうか。

資料2・3から読み取るって書いてあります！



でも、読み取るって難しそう…。



では、資料2・3をよく見てみましょう。何かわかることはないですか。

あれ、資料の下に説明が書いてある！



私が絵を見てわかったことと、同じことが説明されてる！
でも、どうやって文にすればいいか、書き方が不安で…。



次に、〈条件2〉を読んでみましょう。何をどのようにするとありますか。

「～からです。しかし…」という形を使って書くって書いてある！



「～からです」は理由を言うときで、「しかし」は前の文と反対のことを言うから……、反対の状況であることに触れて意見しよう！



活動後の生徒の変容

・資料を読み取り、根拠と考えの関係を明確にして書くことができた。

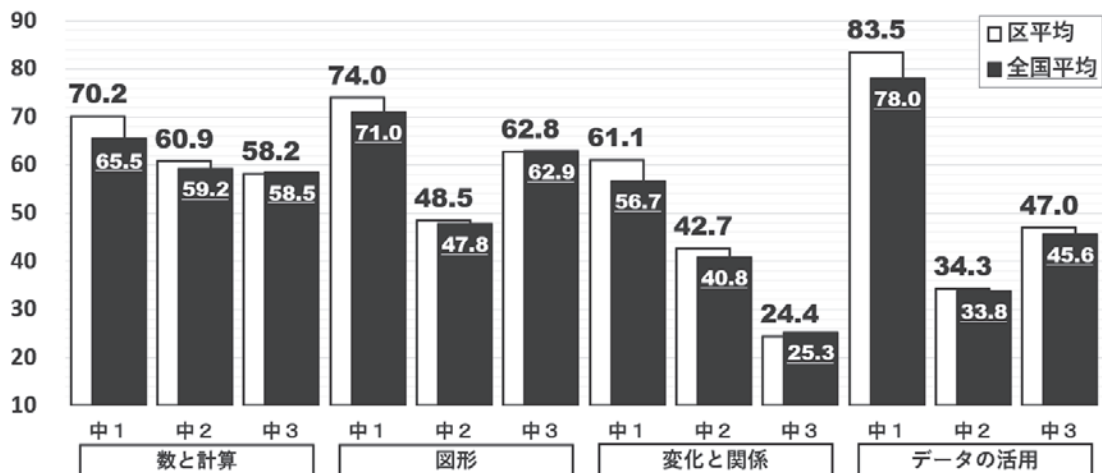
算数・数学

調査結果の分析

《P131～P133参照》

ア 領域別の区と全国の平均正答率（中1・中2・中3）

単位：%



イ 領域別の正答状況

- ・ 中1・中2は区の平均値が全領域で全国値を上回った。中3は「データの活用」を除く3領域で全国値より下回った。
- ・ 領域「関数」を見ると、中3で最も正答率が低い。

ウ 領域「変化と関係／関数」について

(ア) 領域「関数」の問題例（中3 数学³）（5）

1次関数 $y = ax + b$ のグラフにおいて、 x の変域が $1 \leq x \leq 3$ のとき、 y の変域が $2 \leq y \leq 8$ です。このような1次関数は2つあり、1つは $y = -3x + 11$ です。もう1つの1次関数の式を求めなさい。

(イ) (ア) の問題例の解答分析

解答類型	正解	誤答	無解答
	完答	その他の解答	
足立区	14.9%	19.7%	65.4%
全国	15.1%	21.0%	63.8%

無解答の多さから、以下のことが考えられる。

- (例) ・問題把握ができていない。
- ・表、式、グラフを利用して、相互に関連付けて関数を考察することができていない。

見えてきた課題

問題を理解し、表、式、グラフを相互に関連付け、関数を考察することに課題がある。

課題の解決に向けた指導のポイント

問題を理解し、生徒が表、式、グラフを利用して、相互に関連付けて考察するために

ア 数理的に事象を捉え、その中にある関係を見い出させる。

イ 表、式、グラフから関数の特徴を捉えさせる。

活動例

単元 中2「1次関数」



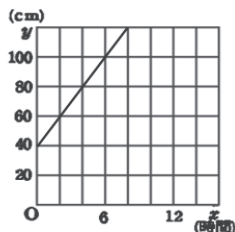
課題は、表、式、グラフから関数の特徴を捉えさせるものがよい。

課題：プールの三つの給水口を使って、150 cmの高さまで水を入れていく。

x 時間後の水面までの高さを y cm とし、 y は x に比例しているとする。

給水口 A

給水口 A では、 x と y の関係は次のグラフのようになる。



給水口 B

給水口 B では、 x と y の関係は次の表のようになる。

x	0	3	6	9	12	...
y	30	50	70	90	110	...

給水口 C

給水口 C では、 x と y の関係は次のような式で表される。

$$y = \frac{25}{3}x + 20$$

給水口 A～C のうち、二つを使って水を入れていくとき、一番早く 150 cm の高さまで入れることができるのは、どの組み合わせか。A～C の組み合わせとその組み合わせを選んだ理由を説明せよ。



T: 問題をよく読み、求めるものは何か、答えてください。

S1: プールに水をいれるとき、水を溜めるのに一番早くなる組み合わせを選ぶことです。



T: この問題を解くには、どうすればよいと思いますか？

S2: 何が分かれば解けるのかわかりません。



S3: 3 つの水道の水の溜まり方が分かれば解けると思います。



T: 良い点に気づきましたね。どうすると水の溜まり方が分かるか、この点も含めてもう少し、個人で考えましょう。

活動後の生徒の変容

- ・ 課題の関数関係を把握することができた。
- ・ 表、式、グラフから、関数の特徴を捉え、変化量に着目して説明することができた。

授業について詳しく知りたい場合は以下の QR コードからアクセスしてください。

- 1 学習指導案
 - 2 学習資料
- を掲載しています。
ご活用ください。

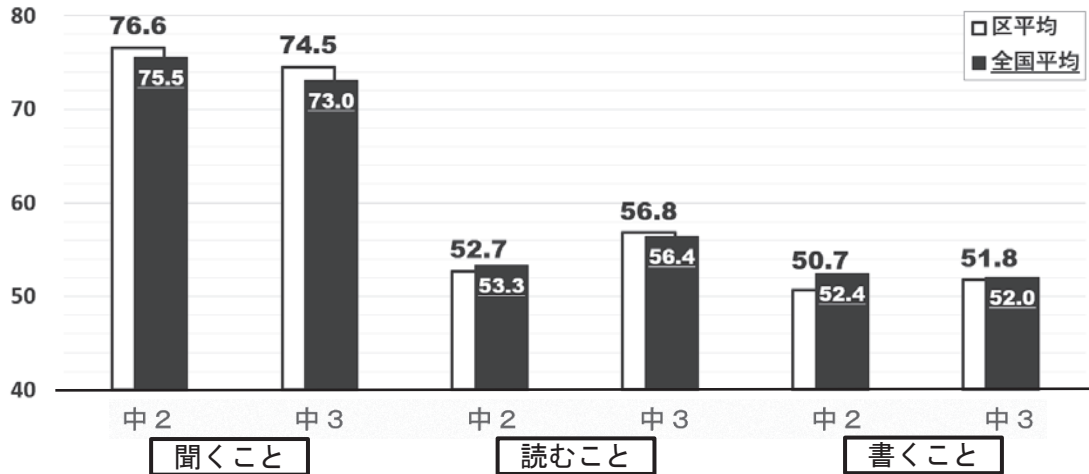


英語

調査結果の分析

《 P 1 3 4 参照 》

ア 領域別の区と全国の平均正答率（中2・中3） 単位：%



イ 領域別の正答状況

- ・ 領域「書くこと」を見ると、中2・中3で全国値を下回っている。
- ・ 領域「読むこと」を見ると、中2では全国値を下回っている。

ウ 領域「書くこと」について

(ア) 領域「書くこと」の問題例（中2 [4]）

右は、ジョンとサキの会話です。自然な会話の流れになるように(1)(2)にそれぞれ3語の英語を書きなさい。

John : Look at this picture.
Saki : Oh, it's *nice. This *woman is beautiful.
 (1) ?
John : She is my sister, Karen.
Saki : (2) with you ?
John : No, she doesn't. She lives in Kyoto now.

(注) nice : すてきな woman : 女性

(イ) (ア) の問題例の解答分析

(1)

	正答 (許容を含む)	誤答	無解答
足立区	50.1%	25.3%	24.7%
全国	53.6%	23.2%	23.1%

- ・ 直後の She is my sister, Karen から人物を紹介していることを捉え、Who を使った be 動詞の疑問文であると判断し、書くことができていない。

(2)

	正答 (許容を含む)	誤答	無解答
足立区	25.0%	35.5%	39.5%
全国	28.6%	34.8%	36.5%

- ・ 直後の No, she doesn't から Yes or No を尋ねるための疑問文かつ一般動詞の疑問文であると判断し、書くことができていない。
- ・ (1)(2) 共に「無解答」に該当する生徒は、会話の内容の読み取りや基本的な語や文法事項を用いて書くことができていない。

見えてきた課題

会話文等を読んで、前後の文脈を捉えつつ内容を理解した上で、その場面や状況に応じた英文を書くことが課題である。

課題の解決に向けた指導のポイント

- ア まとまりのある英文を読む力を付けるために
- 教科書の本文を中心に、自分の力で内容を読み取る機会を設定する。
- イ 場面や状況に応じて、英文を書く力を付けるために
- 伝える内容面を重視した「書く」活動を取り入れ、楽しさを実感させるとともに、意欲を高める。
 - 生徒同士で英文を確認する活動を取り入れ、生徒が自発的に書いた文を校正できるようにする。

活動例



本文の内容を踏まえて、〇〇についての要点や自分の考えを話し合ひましょう。そして話し合った内容をもとに、自分の考えを書いて伝えよう。

本文を読んで解答する質問の例
① 概要 ② 詳細 ③ 自分の考えや意見



すべての生徒が**初出の英語**に対して**自分の力で読み、理解する力をつける機会**を確保する。



The book said “We can all do something to help others.”
What do you think of this message?



読み取った内容をもとに、**要点または自分の考え**を話す。

I want to help disabled people.



I agree with Taro.



That’s great! Why do you think so Emi?



They can’t see anything. They are in trouble.



They must be in trouble. What can you do for them?



I want to take something and…道案内…どう言えばよいのかな…。



We can give directions for disabled people.



I want to help disabled people.
Because they can’t see anything.
So they must be in trouble.
I can give directions and take things.



相手に伝わる文章になっているかを読み直し、修正を加えながら正確さを高める。

活動後の生徒の変容

- 初出の英文を読み、内容を理解した上で、場面や状況に応じた英文を書くことができた。

授業について詳しく知りたい場合は以下のQRコードからアクセスしてください。

- 推進委員による公開授業動画
- 学習指導案
- 学習資料を掲載しています。ご活用ください。

